



文化ボランティアコーディネーター 養成講座 in 可児

平成 22 年 1 月 23 日（土）・24 日（日）開催

alaクルーズが自立したNPO組織を目指す上で、今回アールで開催される文化ボランティアコーディネーター養成講座は、クルーズにとって絶好の機会と思います。全国各地の文化施設を支える文化ボランティアに関わる皆さん80名がここ可児市に集まり、文化活動の必要性ややりがい、活動を進めるにあたっての悩みなどを熱く語り合いました。第一日目は、基調講演、パネルディスカッション、講演と全体会が続き、その後懇親会で交流を深めました。その会場準備の間、職員の案内で施設見学会が行われ、熱心に見入ったり質問される光景が多く見られました。そしてイルミネーション期間中、毎日行われている創造センター恒例の点灯式にも皆さんに参加いただき、点灯の瞬間の大歓声にさらに場が盛り上がりしました。第2日目は1日目のパネリストが講師となり5つの分科会に分かれ、セミナー、事例報告、ワークショップなど工夫を凝らした内容でそれぞれの活動を深く掘り下げていきました。今回alaクルーズの活動も紹介され、ボランティアとは何かを今一度、考え見直すよい機会になりました。最後、総括研修で気持ちを一つにし解散となりました。参加の方より会場や昼食・懇親会などの準備や運営、そしてきめ細やかな対応への感謝の言葉をいただきました。「また、可児に遊びに来ますね。」「私たちの街にも来てくださいね。」など草の根の交流が始まった予感を感じさせる有意義な2日間となりました。



〈alaクルーズ当日の役割〉

- 参加者の受付
- 会場案内及びサポート
- 会場設営など
- 記録（写真撮影など）
- 近隣団体などへの開催告知（PR）活動のサポート
- 開催に向けての各種調査及びサポート
- その他、開催に必要と思われることなどへの協力

心にひびくものたち第10回

ギャラリー展示

平成22年1月13日(水)～18日(月)



ala クルーズ企画展シリーズ『心にひびくものたち』10回目となる今回は、“絵を見る楽しさを感じてほしい、絵を描くこととはどんなことなのかを考えてほしい”と企画実施し980名の来場者がありました。スタッフが作者の人間性を感じられるエピソードなどを紹介し、作者を多少なりとも身近に感じていただきました。その解説が「楽しく絵が鑑賞できた。」と好評を得、解説が始まると一人二人と人の輪が大きくなり「絵画に詳しくない私にもその1枚の絵がとても身近に感じられて足を運んでよかったわ。」「絵画鑑賞はもっと堅苦しいものだと思っていたけど、今回は楽しい雰囲気の中でじっくり鑑賞できました。」などと喜びの声をいただき、多くの方に開催の思いが伝わった企画展となりました。展示ウラ話：気軽に立ち寄って鑑賞してほしいと、ギャラリーでの展示をする為、開催期間中、毎日作品を展示したり外し



主な出品物

日本古画

室町時代	十王図
泥絵	有馬屋敷
丹緑本	挿絵
旗絵	金太郎
奥村土牛	素描の梅
前田青邨	紅白梅
熊谷守一	水墨画
芹沢銈介	ガラス絵
川上澄生	ガラス絵
荒川豊蔵	梅の絵

外国

ルオー	版画
セカール	木画
タピエス	版画
ボードアン	絵
アフリカ	樹皮画
インド	布画



賞していただきたいとの思いだけでギャラリーを使用しています。」と笑顔で語ってくれた企画の担当者。次回の企画展も是非楽しみに。

★ギャラリーに入って最初に掲げてある作品「土」…堀慎吉作。幾つかに重なりあった木片、その断片の色と形が堆積物を想像させ、その構図は漢字の「土」を連想させる。そんな勝手な解釈をしながら絵画の解説を心待ちしていた私の思い込みは、すぐに一掃されてしまった。「この作家たちの多くは、喰うや喰わずの生活の中で、自分の描きたい絵を描き続けた。作品が認められたのは晩年、もしくは死んだ後になってから」と解説が始まった。「時として子どもが無心に描いた絵が心を捉えることがある。描きたいものを思いのままに描く。絵を学ぶという



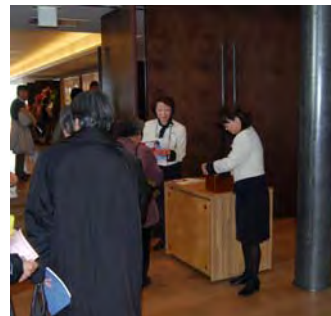
ことは、描きたいものにより近づけるよう努力をすること。」「自分の描きたいものを見つけ出し、考え、描く。また考え、描くを繰り返す。マチスのような画家の絵にも何度も書き直した痕がある。」「世間の評判と自分の好きなものが違う時もある。比べて見ることも大事」と解説は続く。ここに展示された作品は、相応な美術館に行かなければ見られないような著名な作者の作品ばかり。しかし、解説者は作品の内容について一切語らず、作者は「宇和島の神主さんだったんですよ」「シベリアに抑留されていてね」「102歳まで生きた人でね、純真な人で世間に疎かった」「食べるためにパチンコを一所懸命やった人」「塗ったり削ったり、自分が気に入るまで…、そうしているうち最後に決まるときは決まるんですね」と、その作者の人となり語り続ける。作品は見る人の解釈に任せるという姿勢だ。そういえば、本を読んでいる時などに、ああ読め、こう読め、は野暮である。登場人物は自分であったり、知人であったりと想像して読んでいくからこそ楽しい。絵に



言葉はないが、言葉があるように語りかけるのは色であり、形であり、線であれば納得がいく。「民画、仏画、泥絵といわれる大衆物の中にも良い絵がたくさんある。土産品になっていたのではないかとされる大名屋敷の絵、絵の技法には外れているが、見ていて楽しい。ここはこう描いたらと教えられた絵はつまらないですね」と。最後に「今日は日曜日なのに、このギャラリーに子どもが少ないのはどうしてでしょうか。本物を楽しんで栄養にする、そんな心を育ててほしい。この絵を見ることによって救われる子どもも沢山いるだろうから。私がそうであったように。」と結ばれた。



この一年を振り返って



できる事をできる時に 一緒にやりませんか？



ala クルーズ 22 年度総会

平成 22 年 5 月 23 日 (日)

午前 10 時受付

午前 10 時 30 分開始

音楽ロフト

編集後記

真っ白な雪で始まったお正月から、あっという間にもう春です。誰かの歌のように「昔と今じゃ一日の長さが違うんじゃないでしょうかねえ」と感じる速さです。4月から何か新しいことにチャレンジしようと思っている方、すぐ実行しましょう！今月からやらなかったら来月もやらないでしょう。たぶん。……と自分に言い聞かせています。(H)

ala クルーズ事務局 TEL/FAX : 0574-61-3414

<http://www.kpac.or.jp/alacrews/>

Mail : ala-crews@kpac.or.jp